

「進学に対する親と学生の意識調査」について

沖縄振興開発金融公庫企画調査部はブルームーンパートナーズ株式会社と共同で標題について調査を行い、このほど結果がまとまりましたのでリリースします。本調査は、当公庫の教育資金利用者と県出身の大学生及び社会人を対象にアンケートを実施し、両者の進学に対する意識や教育ローンの借入に対する意識について比較分析を行いました。今後同報告書を発刊し、関係機関への配布を予定しております。

調査結果のポイント

I. 進学意識について

1. 親に対するアンケート結果

進路選択は、家庭の経済状況等よりも学生の希望を重視する傾向が強い

平成26～28年度の沖縄公庫教育資金貸付利用者を対象にアンケートを送付

(1) 希望進学先（図表1～3）

親の希望した進学先と、学生の希望した進学先を比較すると、両者の希望進学先は概ね一致する結果となった。

学生側が希望した進学先の理由としては、「希望する学部・学科がある」の割合が77.1%と最も高い。

親側が希望進学先を決定した理由としては、「子どもが希望した進学先なので」の割合が80.5%と最も高く、次いで「学力的な理由で選んだ」、「経済的な理由で選んだ」がともに15.7%となった。

(2) 実際の進学先（図表4～5）

実際の進学先については、「子どもが希望した進学先」の割合が79.7%と最も高い一方、「親が希望した進学先」の割合は2.4%に留まった。

進路選択の際に重視したことは、「子どもが希望する学校」の割合88.5%が「希望よりも経済的な理由」の割合10.4%を大きく上回り、親は進路選択の際に家庭の経済状況等よりも学生の希望を重視する傾向にあった。

2. 学生に対するアンケート結果

進路選択は、家庭の経済状況等も勘案し希望進学先を決定する傾向にある

沖縄県出身の大学生と社会人(29歳以下)を対象にWebアンケートを実施

(1) 希望進学先（図表6～8）

「県外の学校」よりも「県内の学校」、「私立の学校」よりも「公立の学校」、「1人暮らしが必要な学校」よりも「自宅から近い学校」、「専門学校」よりも「大学」を選択した割合がそれぞれ高い。進学先を選択した理由については、「学力的な理由で選んだ」の割合が50.0%と最も高く、次いで「経済的な理由で選んだ」の割合が31.6%となった。

進学先の選択については、「自分自身の希望で」の割合が82.1%と高い一方で、「親に勧められたから」9.7%、「高校の先生に勧められたから」6.6%となった。

(2) 実際の進学先（図表9）

実際の進学先については、「沖縄県内の専門学校」、「沖縄県内の国公立大学」、「沖縄県内の私立大学（短大を含む）」の順で割合が高い。

Ⅱ.教育ローンについて

1. 親に対するアンケート結果

教育ローンは学生の将来のために必要との思いがある一方、借入に対する不安は大きい

(1) 教育ローンの借入について (図表 10～12)

今後の借入予定について、「できれば借入したくない」、「借入したくない」(以下、「借入意欲が低い層」)の割合が合わせて 54.2%となった。借入意欲が低い層では、「利用したいが返済が大変だ」、「もっと気軽に借り入れできるとよい」の割合が高い。

借入に対する考えとして、借入意欲の低い層においても「将来の進路の夢を実現するために必要なことだ」、「給付型の奨学金が一般的になるとよい」、「勉強のため必要なことだ」の割合が高い。

(2) 教育ローンの返済について (図表 13～14)

返済については、所得に関わらず「将来、収入が減少することがあったら、不安になる」の割合が 73.6%と最も高い。

返済方法については、「返済計画の見直しに対応してくれるとよい」の割合が 54.9%と最も高く、次いで「返済額の変更ができる」とよい、「収入に連動した返済額に変更できるとよい」の順で割合が高い。

2. 学生に対するアンケート結果

社会人は教育ローンの借入に対して、両親に負担をかけ過ぎていたと感じている

(1) 教育ローンの借入について (図表 15)

「勉強のために必要なことだ」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「将来の進路の夢を実現するために必要なことだ」、「給付型の奨学金が一般的になるとよい」の順で割合が高い。また、社会人は、学生に比べて「両親に負担をかけ過ぎていたと思う」の割合が比較的高い。

(2) 教育ローンの返済について (図表 16～19)

返済については、「将来、収入が減少することがあったら、不安になる」の割合が 39.8%と最も高く、次いで「収入に対して返済額が大きいと思う」、「生活設計や将来の仕事に対して、大きな制約になっている」の順で割合が高い。また、社会人は、学生に比べて「収入に対して返済額が大きいと思う」の割合が比較的高い。年収別にみると、「100万円～200万円未満」で特に「収入に対して返済額が大きいと思う」の割合が比較的高い。

返済方法については、「収入と連動した返済額に変更できるとよい」の割合が最も高く、次いで「返済期間の延長ができる」とよい、「返済額の変更ができる」とよいの順で割合が高い。年収別にみると、「100万円～200万円未満」で特に「収入と連動した返済額に変更できるとよい」の割合が高い。

Ⅲ.まとめ

(1) 今次調査では、学生側が進学先を希望する理由は主に「希望する学部・学科がある」との一方で、親側の希望する進学先は、主に「子どもが希望した進学先」であることから、両者の希望進学先は概ね一致する結果となった。しかしながら、学生側は単に「希望する学部・学科がある」との理由だけで進学先を決めているわけではなく、家庭の経済状況を考慮した上で、自身の学力等を参考にしながら希望の進学先を探している。希望進学先は、親と学生がお互いの状況を考慮することで決定されていることがうかがえる。

(2) 教育ローンの必要性は親側と学生側の双方が認識しているものの、借入後の返済に対しては不安を感じていることが明らかになった。学生側では、社会人になり返済という現実が身近になったことで、「親に負担をかけ過ぎていたと思う」という回答もみられた。返済に対する負担感から、返済義務の無い給付型奨学金の拡充や、返済に対する柔軟な対応を望む声も多い。

(3) 沖縄公庫では、教育の機会均等などの観点から「教育離島利率特例」や「教育所得特例」等の利率特例制度を設けて金利の低減措置を行う等、就学機会の向上にむけて金融面から支援を続けている。県内企業等、民間側の給付型奨学金はまだ一般的ではないものの、行政の取り組みとしては、沖縄県で平成 28 年度に県外大学進学者に対する給付型奨学金が創設されており、那覇市では平成 31 年度から県内大学進学者に対する給付型奨学金の創設を予定している。また、国は平成 30 年度進学者を対象として給付型奨学金の制度を本格的に実施するなど各方面で一段の進展がみられる。

将来の社会の担い手となる学生を支援する取り組みは社会的に大きな意義があることから、学生の教育環境が制約されることがないよう、今後も官民の取り組みによる更なる支援拡充を期待したい。



BLUEMOON
PARTNERS

ブルームーンパートナーズ 株式会社
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅 2-3-1
メカルヨンゴ（なは産業支援センター）404
電話：098-927-7207 FAX：098-993-7607



沖縄振興開発金融公庫
THE OKINAWA DEVELOPMENT FINANCE CORPORATION

沖縄振興開発金融公庫 企画調査部
[調査内容についての問い合わせ先]
企画調査部 調査課（安里）
沖縄県那覇市おもろまち 1-2-26
電話：098-941-1725 FAX：098-941-1920

<調査実施要領>

1. 調査目的

親と学生のそれぞれの立場から、進学に対する意識や教育ローンの借入に対する意識を明らかにし、政策金融機関として学生の教育機会均等をより進めるための支援政策の一助とする。

2. 調査期間

平成 30 年 2 月 16 日～2 月 26 日

3. 調査対象者

① 親向けアンケート

平成 26～28 年度の沖縄公庫教育資金貸付利用者（直接貸付）

② 学生向けアンケート

沖縄県出身者で、沖縄県内、県外居住者の大学生と社会人 29 歳以下

4. 調査方法

① 親向けアンケート

対象者にアンケートを送付し、本人記入を求める方法による。

② 学生向けアンケート

インターネット調査会社(株式会社マーシュ)の登録モニターのうち 20 代以下を母集団として電子メールで依頼し、ウェブサイト上の調査画面に回答者自身が回答を入力して調査を行う。

5. 主な質問項目

質問項目	概要
1. 属性について	性別、年齢、職業、住居形態等
2. 希望進学先について	希望進学先、進学先を選んだ理由等
3. 教育ローンの借入について	利用有無、借入残高、借入に対する意識等
4. 教育ローンの返済について	返済に対する意識等

6. 回答者数

① 親向けアンケート

(1)送付数：1,492 件

(2)回答数：375 件

② 学生向けアンケート

(1)スクリーニング調査：15,000 サンプル

(2)本調査：196 サンプル（社会人：118 サンプル 学生：78 サンプル）

※スクリーニング調査…本調査の調査対象の対象者条件に合うかどうかを判別するための簡易なアンケート

本調査…スクリーニング調査で得た、調査対象の該当者に対して行う詳細なアンケート

図表 1-1 親と学生の希望進学先/県外・県内

		学生の希望	
		A: 沖縄県外の学校	B: 沖縄県内の学校
親の希望	A: 沖縄県外の学校	46.8%	1.9%
	B: 沖縄県内の学校	14.5%	36.8%

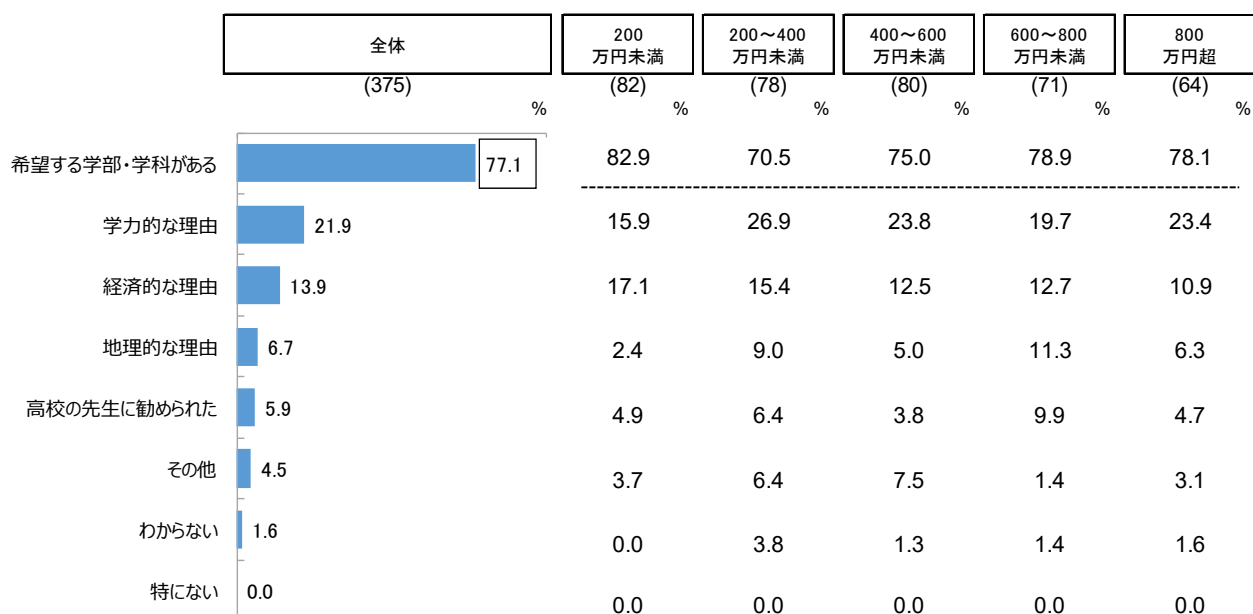
図表 1-2 親と学生の希望進学先/公立・私立

		学生の希望	
		A: 公立の学校	B: 私立の学校
親の希望	A: 公立の学校	30.3%	18.9%
	B: 私立の学校	4.2%	46.6%

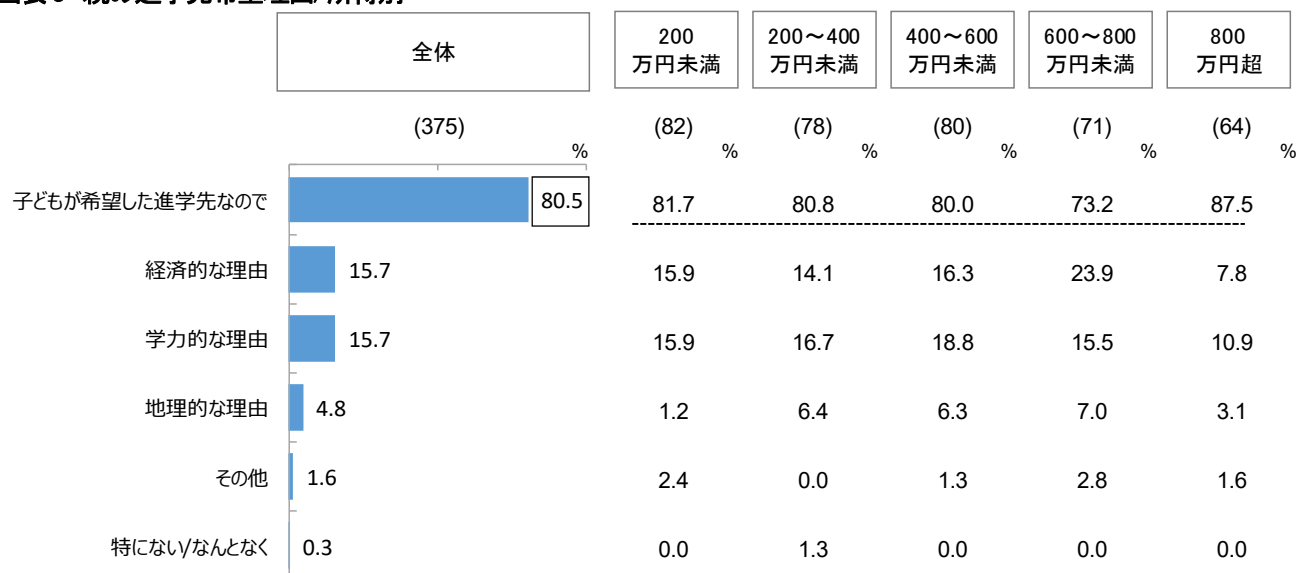
図表 1-3 親と学生の希望進学先/大学・専門学校

		学生の希望	
		A: 大学	B: 専門学校
親の希望	A: 大学	63.4%	3.2%
	B: 専門学校	3.6%	29.7%

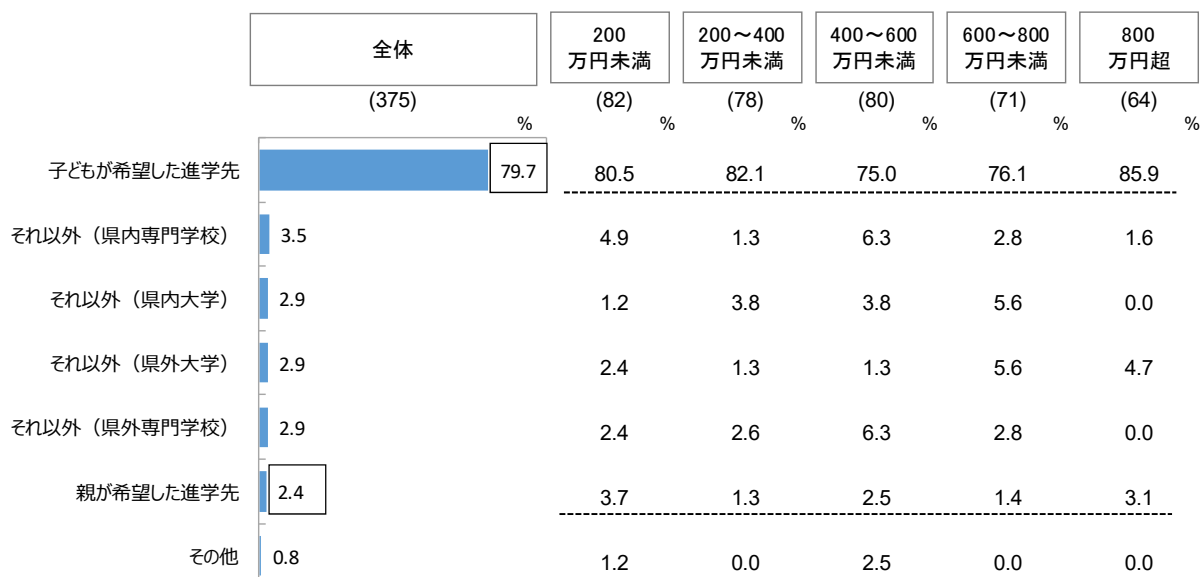
図表2 (親に聞いた)学生の進学先希望理由/所得別



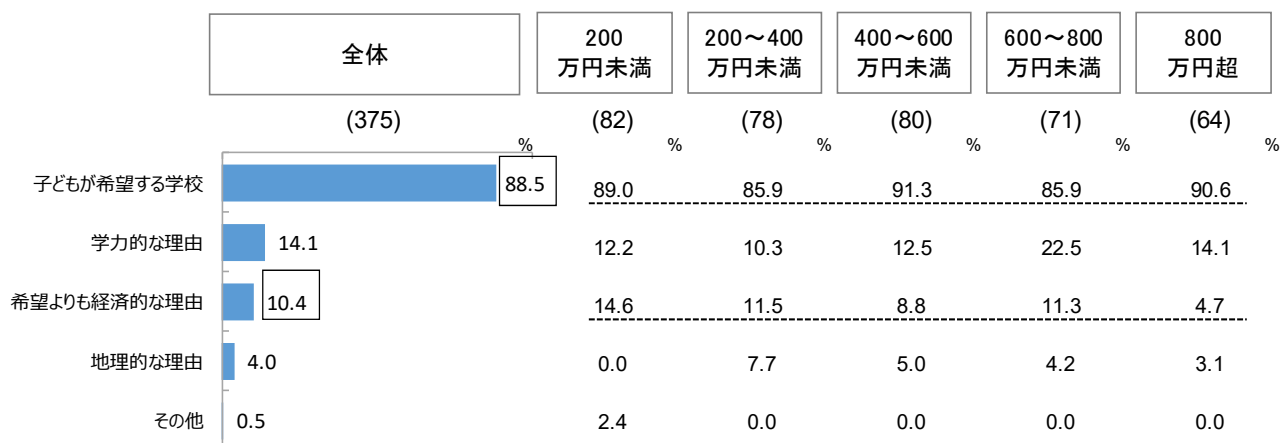
図表3 親の進学先希望理由/所得別



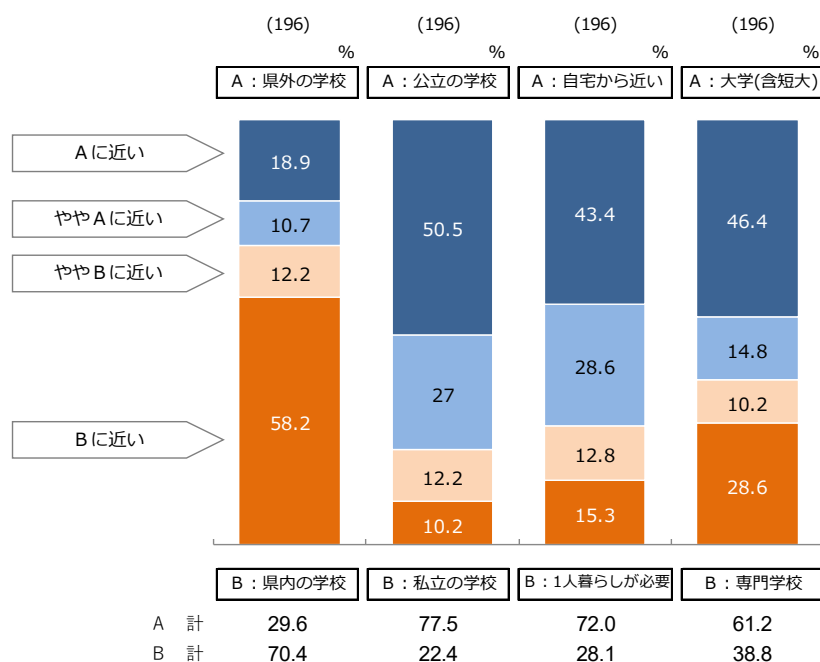
図表4 実際の進学先/所得別



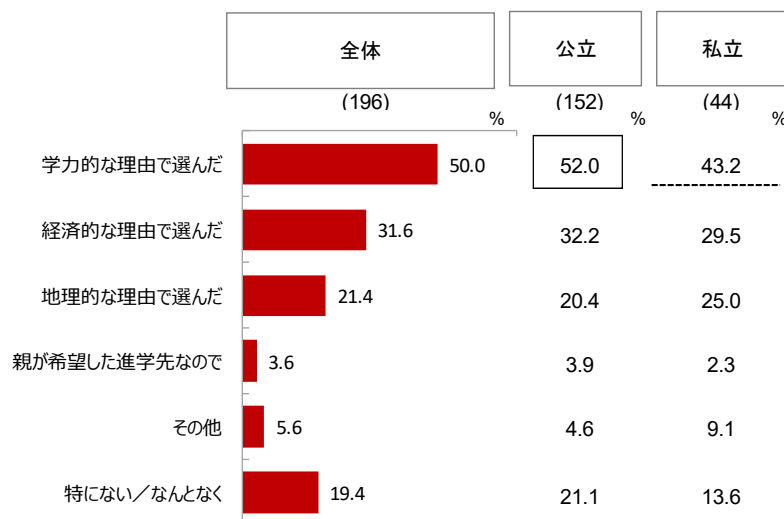
図表5 (親に聞いた)進路選択の際に重視したこと



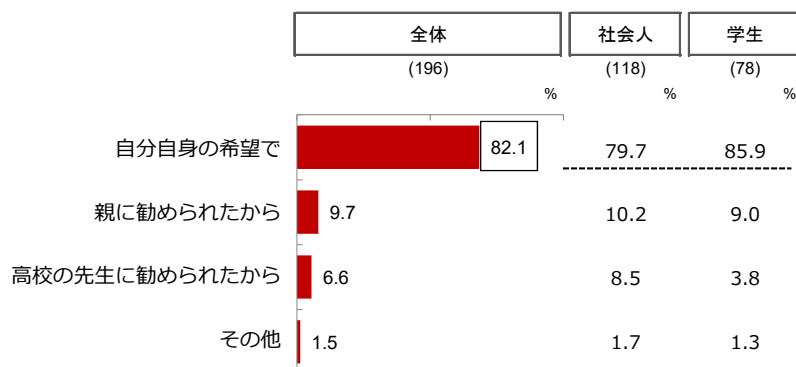
図表6 (学生に聞いた)希望進学先



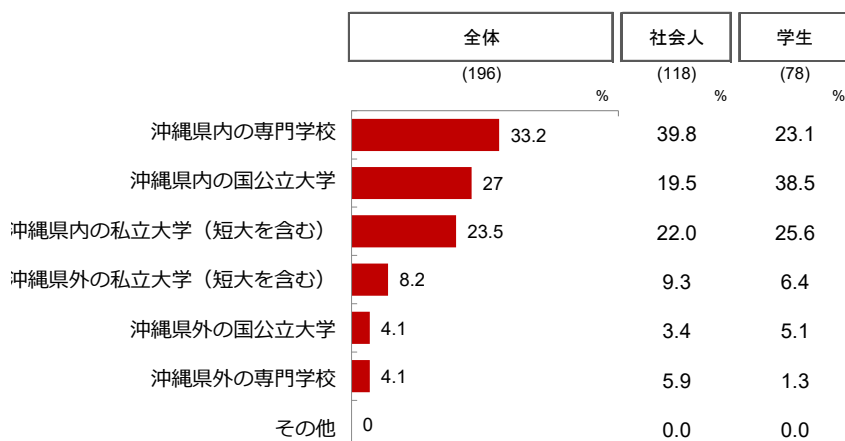
図表7 (学生に聞いた)進学先希望理由/公立・私立



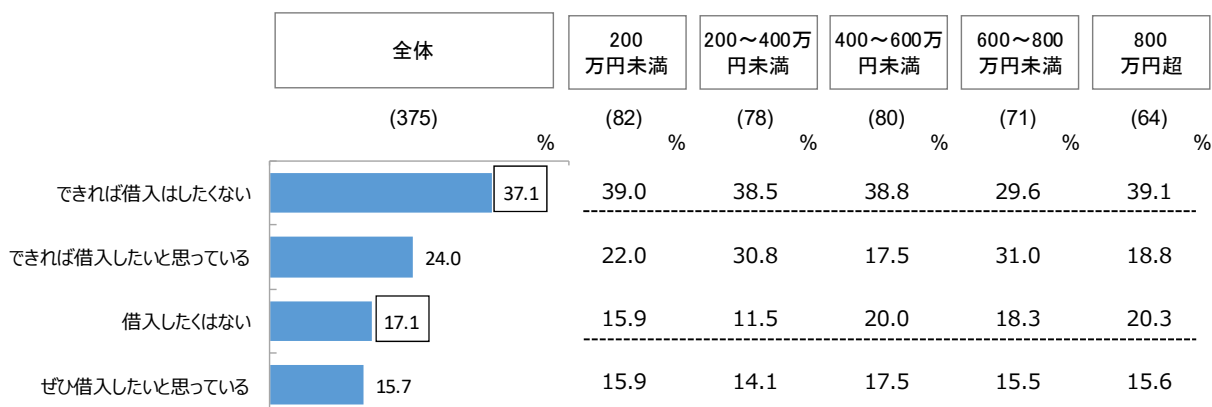
図表 8 希望進学先を決めた経緯/社会人・学生



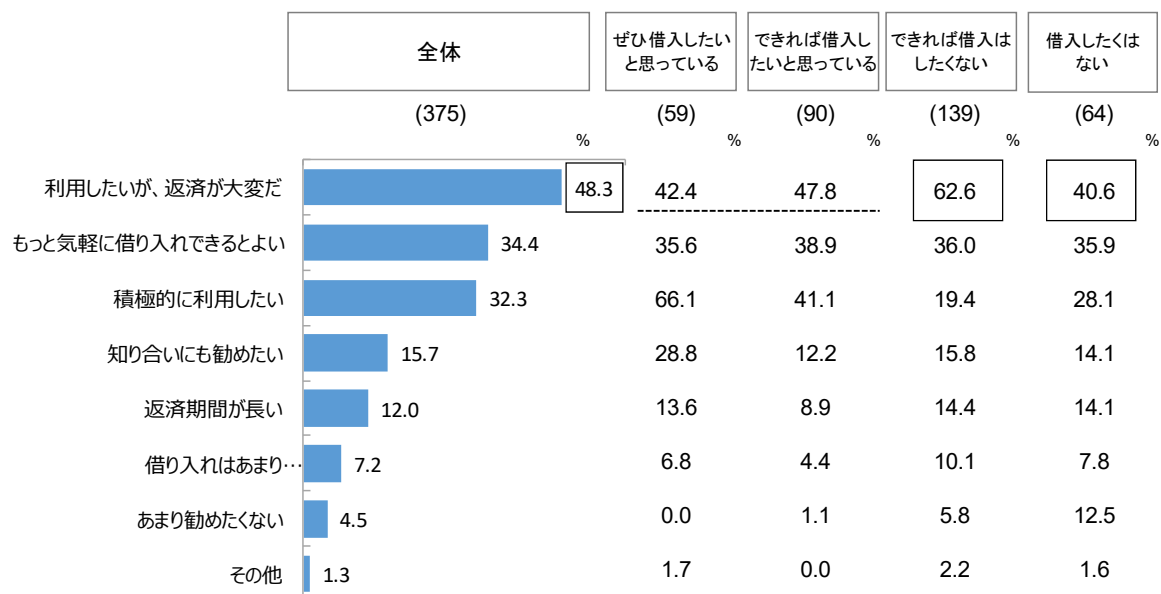
図表 9 (学生に聞いた)実際の進学先/社会人・学生



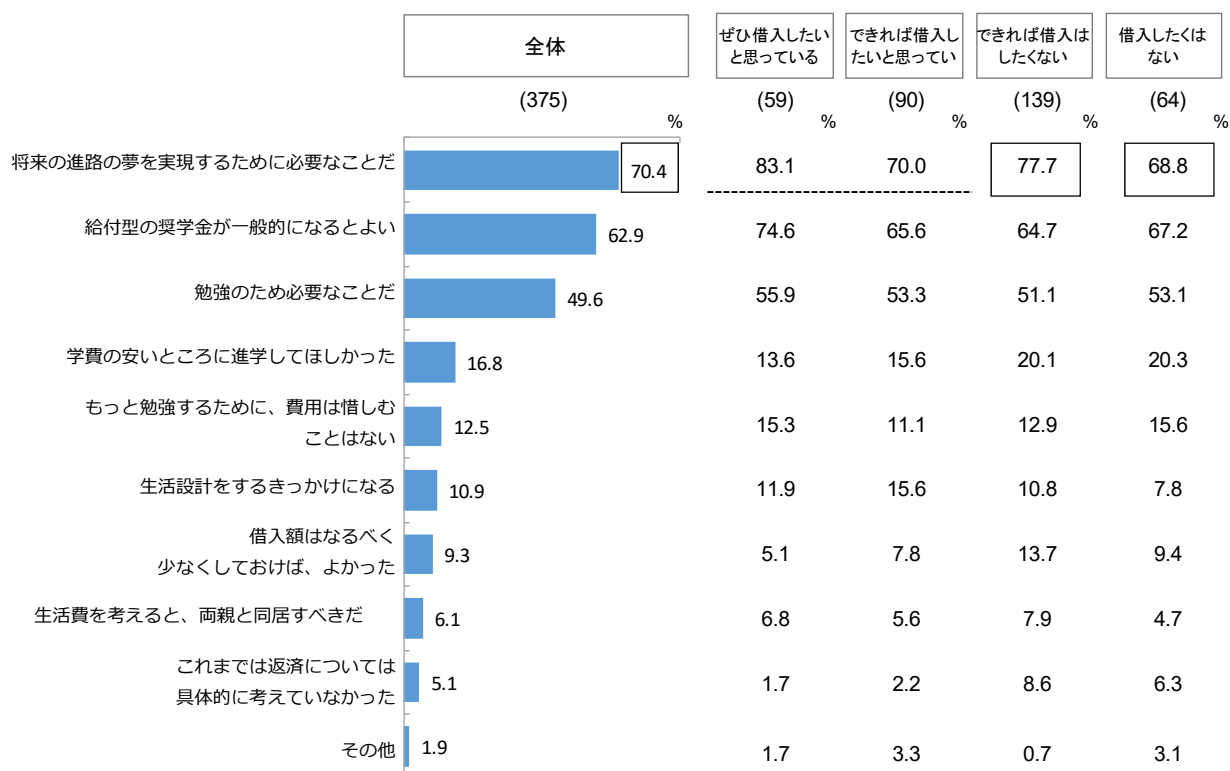
図表 10 (親に聞いた)今後の教育ローン借入意向/所得別



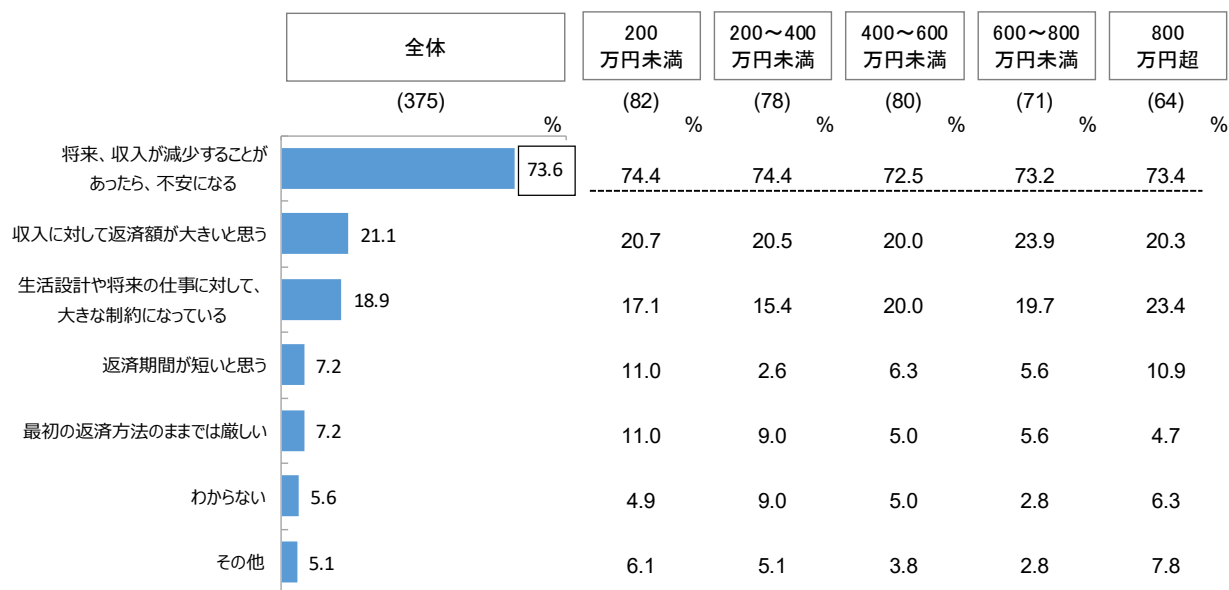
図表 11 (親に聞いた)教育ローン借入に対する考え×今後の教育ローン借入意向



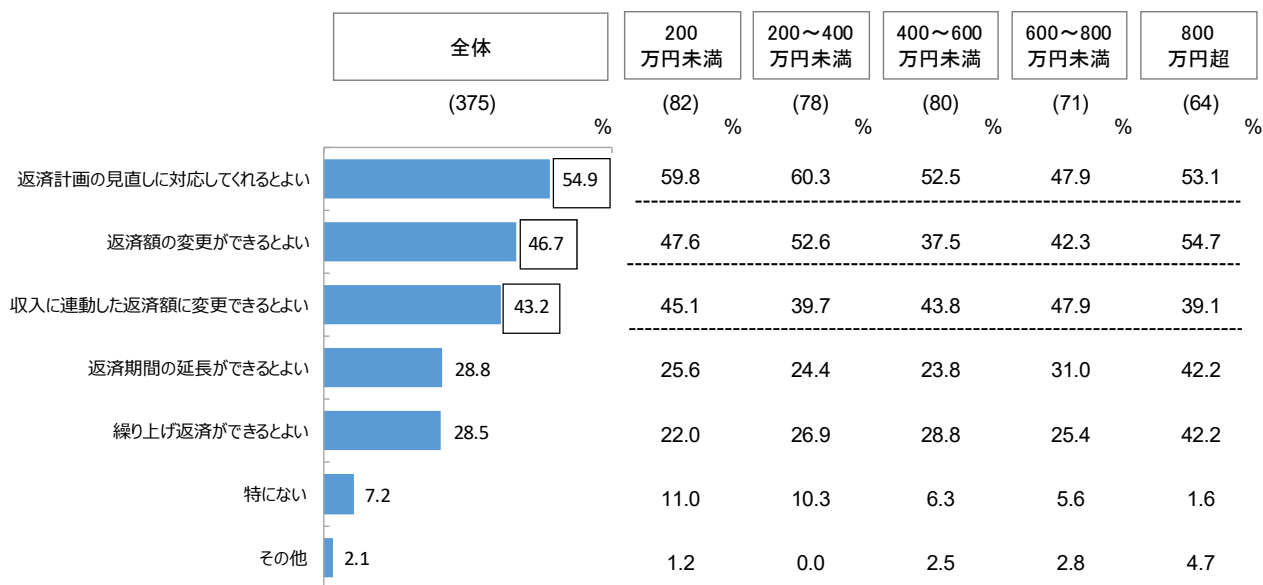
図表 12 (親に聞いた)今後の教育ローン借入意向



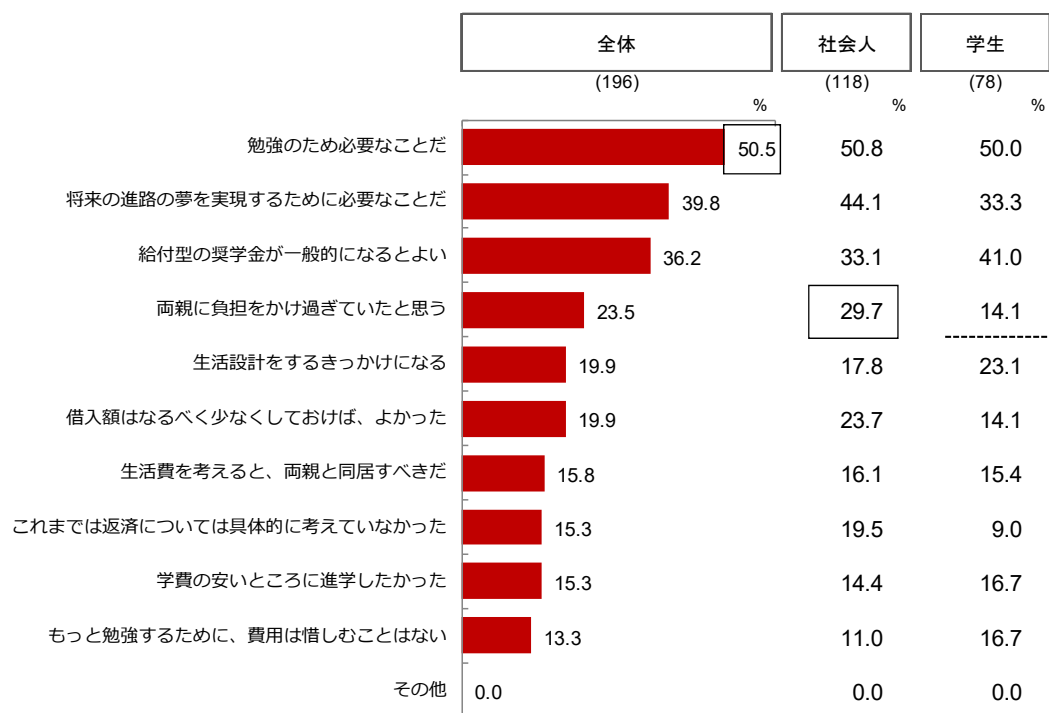
図表 13 (親に聞いた)教育ローンの返済に対する考え/所得別



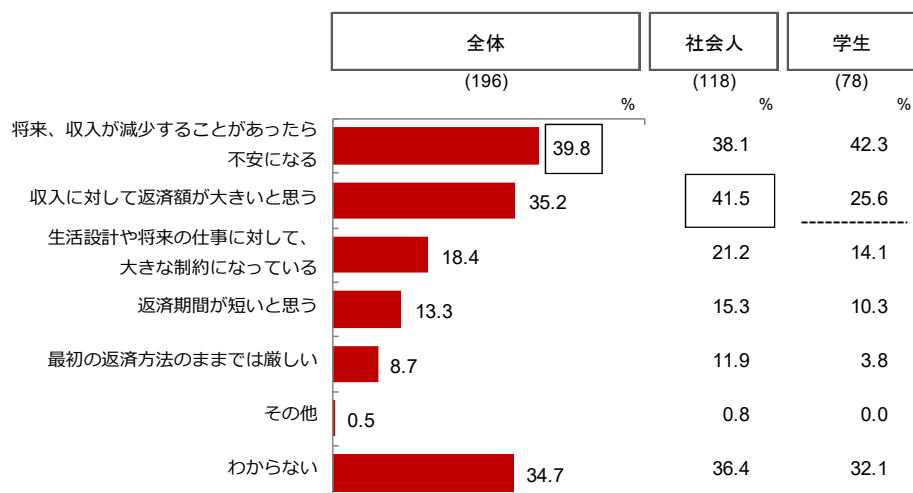
図表 14 (親に聞いた)教育ローン返済に対する要望/所得別



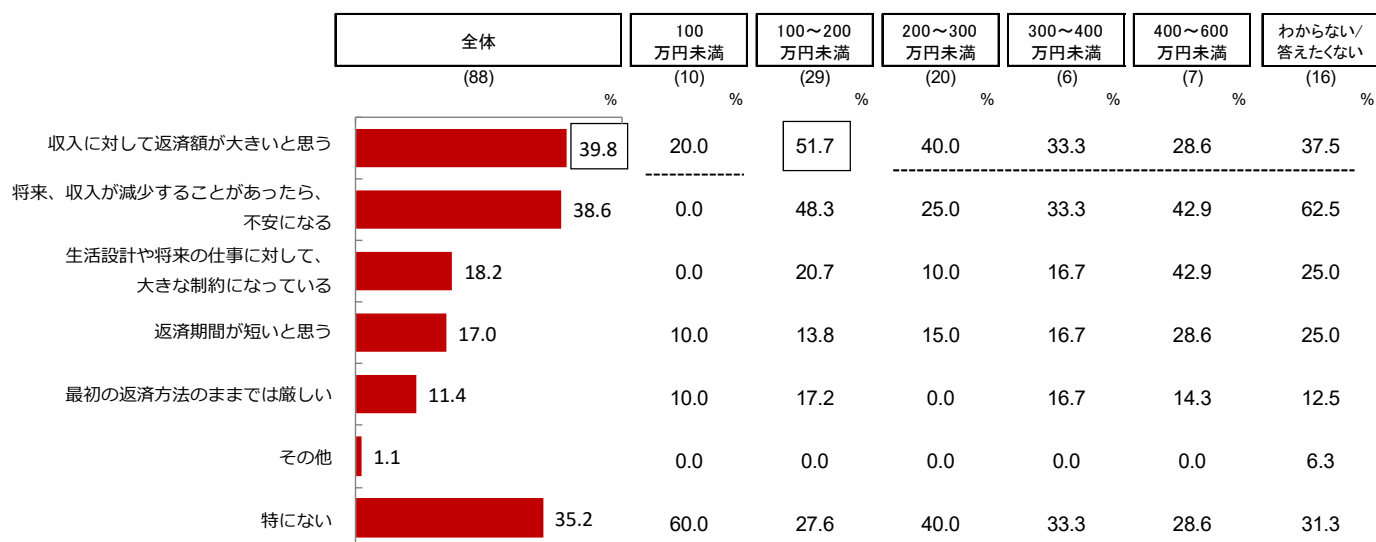
図表 15 (学生に聞いた)教育に関する費用の借入について/社会人・学生



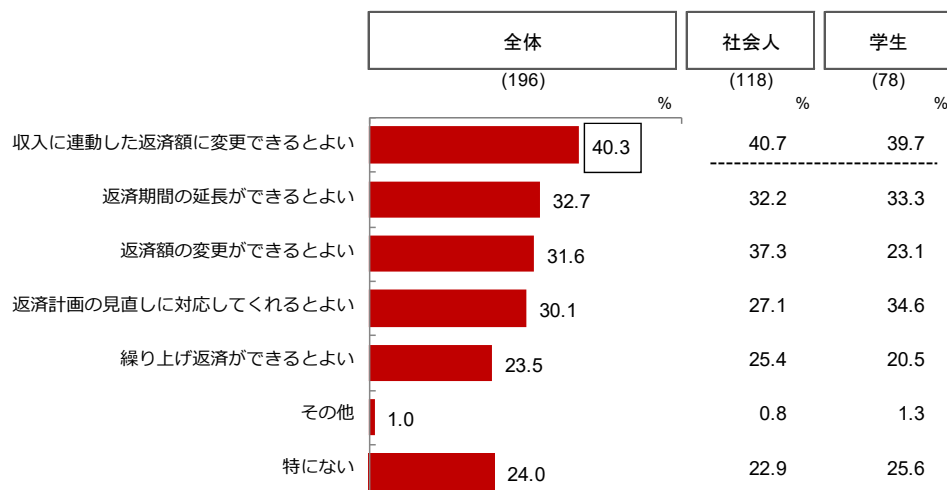
図表 16 (学生に聞いた)教育ローン返済に対する考え/社会人・学生



図表 17 (学生に聞いた)教育ローン返済に対する考え/社会人・年収別



図表 18 (学生に聞いた)教育ローン返済に対する要望/社会人・学生



図表 19 (学生に聞いた)教育ローン返済に対する要望/社会人・年収別

